

# 1 幼稚園教育の充実

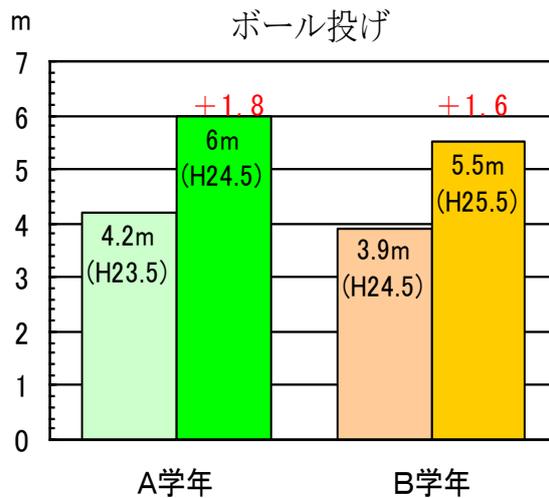
①施策の展開	幼稚園教育の充実	課名	学務課
②取組概要	幼稚園教育要領の趣旨に基づき、義務教育前の基礎を培う教育として、幼児一人ひとりの発達や特性に応じた教育の充実を図るとともに、家庭・地域の子育て支援や小・中学校及び保育所等と連携した特色ある幼稚園づくりを推進する。		
③構成取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 特色ある幼稚園づくり事業</li> <li>(2) 子育てステップ活用事業</li> <li>(3) 地域人材活用事業</li> <li>(4) ふれあい図書ルーム<sup>(1)</sup>事業</li> <li>(5) 幼稚園規模の適正化事務</li> </ul>		

④取組計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 様々な人たちとの交流を通して子どもの心と体を動かし、心身ともにたくましい子どもを育てられる特色ある幼稚園づくりを推進する。</li> <li>(2) 幼児一人ひとりの特性に応じ、「子育てステップ」を活用し、保護者と子育てについて課題や成長を共有する。</li> <li>(3) 幼稚園外の専門的な技術や知識を持った人材を活用し、幼稚園・家庭・地域社会の連携を強化する。</li> <li>(4) 絵本の活動を通し、子どもの成長や親育ちを支援し、保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努める。</li> <li>(5) 「公立幼稚園の運営と今後のあり方の実施計画」に基づき、公立幼稚園の効率的な運営を図る。</li> </ul>		
-------	---	--	--

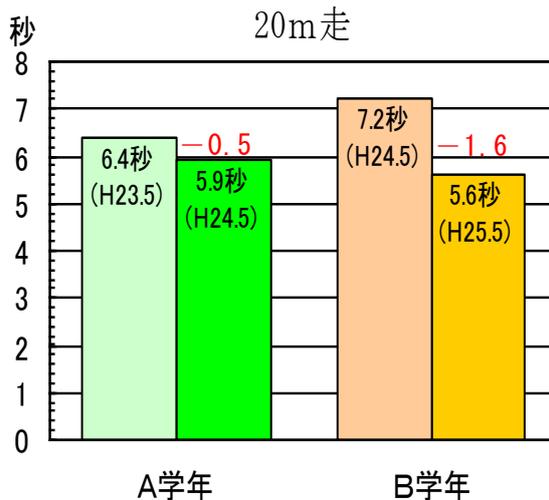
⑤取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成 23 年度より 3 年間、神田幼稚園を指定し、「育てようじょうぶな体と強い心」を目標に運動あそびと伝承あそびに取り組んだ。子どもの実態を把握し、発達段階に応じた活動</li> </ul>		
-------	---	--	--

内容を工夫し、インストラクターやまちのせんせいとの打ち合わせや連携を密に行った。子どもたちには、チャレンジカードを作成し、できたことがわかり、自信や意欲へつながるようにした。定期的に体力測定を行い、次の活動へつなげていくようにした。伝承あそびでは、週1回チャレンジタイムを設けて、あやとり・こま・けん玉・お手玉など実施した。

<体力測定結果：1年後の比較>



(ボール投げ) 確実に腕の力が付き、投げ方も上手になったことで距離が伸びている。



(20m走) 年少児より鬼ごっこ遊びなどでよく走り回っていたことが伸び率につながっている。

	<p>様々な連携については、「保育所・幼稚園・小学校連携の集い」を開催し、幼稚園・保育所から小学校への接続が円滑に行われるようにそれぞれの立場からの意見交流を実施した。</p> <p>(2) 「子育てステップ」の「どんな子どもに育てたいですか？」の項目から、保護者の子育てに対する思いを知り、子どもの発達の方向性と共に保護者支援を考え、園と家庭が子育てを共有できるようにした。</p> <p>(3) 絵本の読み聞かせ・運動あそび、英語活動など、様々な分野の地域人材の方々を活用し、園児の楽しめる場、また未就園児、保護者、保育所児などの異年齢交流の場となるようにした。参加人数（園児・保護者・未就園児）は、3,742名（H24：3,586名）であった。</p> <p>(4) 子育て支援の一環として未就園児への開放、絵本の貸し出しなど行った。6園の延べ利用者数（園児・保護者・地域の方）は年間3,726名（H24:4,614名）であった。</p> <p>(5) 平成25年度末に池田幼稚園を廃園とし、隣接するすみれ保育所民営化と合わせ、平成26年度より民営の認定こども園の開設に至った。</p>
--	--

<p>⑥評価</p>	<p>(1) 3年間の活動を経て、体力測定の結果と怪我の状況を比べると、瞬発力や腕の力が向上するのと比例して、園での怪我の件数(H24:204件⇒H25:118件)が減っている。これは、基礎体力の向上に伴い、機敏に体を動かせるようになり、転倒・衝突が減ったためではないかと考えられる。</p> <p>保護者のアンケートからは、「昨年と比べ体力が付き、できなかったことができるようになってきている」「運動あそびや伝承あそびの参加型参観は、子どもが一番の楽しみにしている」「友達同士良い刺激になっている」などの感想が寄せられた。</p>
------------	--

今後も伝承あそびや運動あそびを柱とした「レッツ・チャレンジ」の活動を継続し、体力向上に資するよう取り組み、公私立幼稚園へ啓発していく。

11月に開催した「保育所・幼稚園・小学校連携の集い」においては、交流する中で、保・幼・小の連携の強化がなされた。次年度も集いを開催し、情報提供の充実や教育内容の一層の連携を図っていく。

- (2) 「子育てステップ」を通して、幼稚園と保護者が連携し、子どもたちの姿を共通理解し、幼児一人ひとりの発達・個性を大切に発達の方向性を明確にすることで、子育てを効果的に進めることができた。
- (3) 園児にとっての楽しい企画であるとともに、地域の未就園児、その保護者、園児の弟妹、保護者にとっても楽しく参加でき、園児との触れ合いもできる場となっている。幼稚園で行う楽しい活動を通し、幼稚園教育の理解の場となっている。今後も、地域に根ざした子育て支援センターの役割を果たすべく創意工夫した企画を実施していく。
- (4) 園児の減少などにより、延べ利用者数は減少したが、絵本サークルでの定期的な利用や友人知人を誘い利用するなど、ふれあい文庫が地域の未就園児の集いの場として活用されている。しかし、ふれあい文庫の利用者が、同じ人に偏る傾向にあるため、様々なテーマを設定するなど工夫し、新しい利用者を開拓するよう、より一層幅広い啓発運動を実施していく。
- (5) 池田幼稚園廃園、認定こども園開設に向け、市長部局と連携を図り、保護者・地域の方々の理解を得ながら進めることができた。工事期間中の安全確保も含め、こども園に入園する池田幼稚園の子どもたちが心配なく移行できるよう、環境作りに努めることができた。今後、平成27年度本格実施する

	子ども・子育て支援新制度を鑑みて、地域の子育て支援の充実をめざして、調査研究を実施していく。
--	--